

キャンパス名	千葉キャンパス				
授業番号	10576002				
授業名	チームワークとリーダーシップ B	形態	講義	単位	2
担当教員	蔵 琢也				
開講学期	2025年度 前学期	曜日・時限	火曜4限		
授業目的	①他者と共に共通の目標を達成するためには何が必要なのか、何が弊害となるのかを分析的にみる視点を獲得すること。 ②チームを目標達成に導くリーダーシップとはいかなるものかと、適切なリーダーシップを維持するためにフォロワーがすべきことを理解すること。 ③以上から、自分がチームワークの問題に直面したとき適切な解決方法をとるために、問題の所在はどこにあるか、自分がすべきことは何かを論理的に考える力を養うこと。				
授業内容	①他者と共に共通の目標を達成するために必要な要因、目標達成を阻害する要因に関する様々な理論を紹介する。 ②チームを目標達成に導くリーダーシップに関する理論を概説し、適切なリーダーシップを維持するためにフォロワーがすべきことについて考察する。 ③様々な理論をもとに自分がチームワークの問題に直面したときどのように解決可能なのかを考える。				
到達目標	①他者と共に共通の目標を達成するためには、何が必要か、何が弊害となるかを分析的にみる視点の獲得。 ②チームを目標達成に導くリーダーシップとは何か、適切なリーダーシップを維持するためにフォロワーがすべきことは何か理解すること。 ③自分がチームワークの問題に直面した時、適切な解決方法をとるために、問題の所在はどこにあるか、自分がすべきことは何かを論理的に考える力を養うこと。				
ディプロマポリシーとの関連性	＜大DP1-（４）＞自己管理能力、倫理観、リーダーシップ、市民としての社会的責任、生涯学習力を修得している。				
授業形態	受講者の人数に応じて、アクティブラーニングに準じる様々な双方向的な手法も取り入れる。必要に応じて、多数の参考ビデオも用意し、受講者の理解を図る。受講者が多い場合は、一部、講義形式も取り入れる。 本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。 詳細は以下のURLをご参照ください。 https://www.shukutoku.ac.jp/extra/pdf/chiba2025jitsumukyounin.pdf （【千葉キャンパス】2025年度 実務経験のある教員一覧）				
事前・事後学習の所要時間	本科目では、各授業回に２時間の事前学習、２時間の事後学習を必要とする。合計１５回の授業で、事前事後学習60時間となる。				
テキスト	※この科目では指定の教科書はありません。授業内で使用する資料等については、別途授業内でご案内いたします。				
評価方法	提出された課題の内容、筆記試験の結果のそれぞれが到達目標に達しているかを総合的に評価する。				
評価基準	課題60点、筆記試験30点、リアクションペーパー10点を基本とする。				
試験・レポート等のフィードバック	レポート課題やテストは必要があれば、適時、授業内で講評・解説を行う。				
注意事項及び履修条件	特に指定しないが、授業をまじめに、かつ真剣に取り組む姿勢を望む。				
S：100～90、A：89～80、B：79～70、C：69～60、D：60未満					
第1回					
事前学習	「チームワーク」と「リーダーシップ」の社会や人生における意義について、考えてみる。				
授業内容	受講にあたってのオリエンテーション、講義の体系について説明する。				
事後学習	講義内容を振り返り、ノートなどにまとめておく。				
参考文献	履修要項（シラバス）、履修の手引き				
第2回					
事前学習	「テスト勉強を友人と一緒にやる場合」と「テスト勉強を一人でやる場合」と比較し、チームを組んで課題を行うことのメリットとデメリットを考える。				

授業内容	人が集団を形成する意義、集団・集合とチームの違い、チームワークとは何かについて講義する。
事後学習	講義内容から、自分が所属して「チーム」と呼べる集合体があるかを、理由を挙げて考える。講義の要点を人に説明できるようにまとめておく。
参考文献	山口裕幸『チームワークの心理学』

第3回	
事前学習	過去の経験から、チームワークが良いと思うチームと、悪いと思うチームを思い浮かべ、それらを比較して、どうすればチームワークを高められるかについて自分なりに考える。
授業内容	チームワークを高める要因について講義する。例として、ホーソン工場実験、動機付けの研究について触れる。
事後学習	講義内容を復習し、チームのモチベーションを高める方法と、現実場面への応用について考えておく。
参考文献	大橋昭一・竹林浩志『ホーソン実験の研究』

第4回	
事前学習	自分の所属するチーム(あるいは小説・ドラマ・映画などに登場するチーム)を例に、「仲が良いからこそ引き起こされてしまいそうな問題」について考える。
授業内容	チームワークを高める要因に関する、凝集性について講義する。
事後学習	自分が所属する集団について、その凝集性は良いかどうかを考える。進んで、集団の凝集性を高めている原因について考える。
参考文献	山口裕幸『チームワークの心理学』

第5回	
事前学習	「多くの人が他者の意見に合わせたことが、失敗に終わった」体験を思い出し、その原因について考える。
授業内容	チームワークを高める要因に関する、集団規範について講義する。
事後学習	チームの目標から外れた集団規範が生じた場合、それを正すには、どのような手法が有効になるかを復習する。
参考文献	山口裕幸『チームワークの心理学』

第6回	
事前学習	他チームとの競争において、勝利という目標と、勝敗とは無関係に自分たちを高めるという目標の、どちらが集団全体のモチベーションが高まるかを事前に考えておく。
授業内容	チームワークを高める要因に関する、集団間葛藤について講義する。
事後学習	講義内容の、チームワークを高めるのに有効な集団間の葛藤と、チームワークを破壊する作用の違いについて自分なりに考え、まとめる。
参考文献	山口裕幸『チームワークの心理学』

第7回	
事前学習	「チームワークを高める」ことの障害となる要因について注目し、考察することの重要性について、予め考えておく。
授業内容	チームワークを阻害する要因となる社会的な手抜きについて講義する。
事後学習	自分が所属する集団について、社会的な手抜きについて具体的に考え、それが起こらない方策について考察する。
参考文献	池田貴将『図解 モチベーション大百科』

第8回	
事前学習	まず、自分の働きぶりをどのような方法で評価してほしいかについて考えてみる。 そのうえで、チームのメンバーの働きぶりを、適切に評価する方法を考えてみる。
授業内容	チームワークを阻害する要因となってしまうかねない、評価システムについて講義する。
事後学習	高度経済成長を支えた年功序列制度と終身雇用制度の成功の原因を考え、そのような人事考課が維持された理由をまとめておく。 さらに現在の日本において、この制度が、うまく行っていない原因をも考える。
参考文献	山口裕幸『チームワークの心理学』 池田貴将『図解 モチベーション大百科』

第9回	
事前学習	現実の社会における、絶対評価と相対評価それぞれの長所と短所を自分なりに、考えておく。
授業内容	チームワークを阻害する要因となってしまうことも多い、個人別の業績中心の評価システムについて講義する。

事後学習	この授業の成績の評価基準について、自分は絶対評価と相対評価のどちらで評価されたいかについて考え、その理由をまとめる。
参考文献	西尾太『人事の超プロが明かす評価基準』

第10回	
事前学習	過去に自分が所属した集団で生じたコミュニケーションの問題の中で、相手の言っていることが正論であるにもかかわらず受け入れがたいと感じた事柄について思い出し、そのように感じた原因について自分なりに整理しておく。
授業内容	チームワークを阻害する要因に関する、コミュニケーションネットワークについて講義する。
事後学習	自分が所属する、集団のネットワーク図を書き、コミュニケーションの問題がネットワークの構造によって引き起こされている可能性について考える。
参考文献	水國照充, 青木智子他 『対人コミュニケーションの心理学』

第11回	
事前学習	チームにはなぜリーダーが必要なのかを考える。 自分の所属するチームにおいて望ましいリーダーとはどのような人物か考える。
授業内容	チームワークを良好なものにする一つの要因であるリーダーシップについて、なぜリーダーが必要なのか、リーダーシップ特性論、効果的リーダーシップスタイルについて講義する。
事後学習	講義のリーダーシップ論を参考にして、自分が所属する集団においての望ましいリーダー像を、具体的に考えてみる。
参考文献	国分康孝『リーダーシップの心理学』

第12回	
事前学習	自分の知る様々な組織のリーダーたちの、普段の行動を思い出し、それらの行動の共通点や相違点を考える。
授業内容	チームワークを良好にするリーダーシップに関する、リーダー行動パターンアプローチ、PM理論について講義する。
事後学習	事前学習で触れたリーダーの行動を、PM理論の2つの軸で分類し、自分の知るリーダーはどのタイプなのかを考える。他の受講者と話し合い、リーダーのタイプと、メンバーの満足度、集団目標の達成度の関連を検討し、授業内で紹介された先行研究の結果と比較する。
参考文献	三隅二不二『リーダーシップの科学』

第13回	
事前学習	自分が属する集団において望ましいリーダーの条件は、他の状況においても望ましいと言えるか、その理由も合わせて考える。
授業内容	チームワークを良好なものにする一つの要因であるリーダーシップについて、状況即応理論、変革型リーダーシップ理論について講義する。
事後学習	講義内容を踏まえたうえで、友人が所属するチームにおいて望ましいリーダーの条件と、自分が所属するチームにおいて望ましいリーダーの条件について話し合い、その共通点と相違点から友人と自分のチームの置かれた状況がどのように異なるのか考える。
参考文献	国分康孝『リーダーシップの心理学』 山口裕幸『チームワークの心理学』

第14回	
事前学習	これまでのノート、配布資料等を読み返し、重要事項についての確認を行う。
授業内容	短い試験を実施する。また、これまでの授業を補足する。 様々な理由により、授業内試験が受けられなかった生徒には、別途、レポート課題を課す。
事後学習	これまでの授業での重要事項について復習し、レポート等を完成させる。
参考文献	国分康孝『リーダーシップの心理学』 山口裕幸『チームワークの心理学』

第15回	
事前学習	これまでの授業の内容を見返し、自分が所属しているチームにおいてそのチームワークを高めるために自分自身にできることは何かを考える。
授業内容	課題やテストの講評を行う。これまでの授業を総括する講義を行う。 様々な理由により、授業内試験が受けられなかった生徒には、別途、レポート課題を課す。
事後学習	この授業を振り返り、自分が適切なリーダーシップを発揮するリーダーを支えるためにできることを挙げ、リーダーとメンバーの望ましい相互作用について総括する。
参考文献	特に指定しない。

※この他に試験が実施される場合があります。担当教員の指示に従ってください。

ディプロマポリシー	＜大DP-1＞【社会の構成員としての基本的知識・技能・能力】 ＜大DP1-（１）＞日本語や英語のコミュニケーション能力を修得している。 ＜大DP1-（２）＞情報リテラシーや数量的スキルを修得している。 ＜大DP1-（３）＞課題発見・問題解決能力を持ち、主体性をもって協力し合う態度を身に付けている。 ＜大DP1-（４）＞自己管理能力、倫理観、リーダーシップ、市民としての社会的責任、生涯学習力を修得している。 ＜大DP1-（５）＞人間、社会、国際、自然等に関する広い知識と理解を有している。 ＜大DP-2＞【専門教育分野における知識・技能・能力】 ＜大DP2-（１）＞自らが学んだ学位プログラムの基礎となる原理・原則を理解し、それに基づく体系的専門知識を修得している。 ＜大DP2-（２）＞修得した体系的専門知識を、実践の場において活用する技能や態度を修得している。
-----------	--